

平成 30 年 5 月 31 日

全国大学音楽教育学会会員各位  
関東地区学会会員各位

全国大学音楽教育学会  
関東地区学会  
会長 小倉 隆一郎 (学会印省略)

## 『平成 30 年度 第 1 回研究会・総会のお知らせ』(最終案内)

会員の皆様には益々ご健勝のことと存じます。

さて、全国大学音楽教育学会 関東地区学会の第 1 回研究会を下記のように開催いたします。奮ってご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

### 平成 30 年度テーマ

#### これからの子どもの教育と音楽

- 1 日時 平成 30 年 6 月 16 日 (土) 午後 13:00~16:30
- 2 会場 ヤマハ株式会社(東京高輪) 1F プレゼンテーションルーム  
(都営地下鉄浅草線 泉岳寺 A3 出口 徒歩 1 分)
- 3 日程 12:30~13:00 受付  
13:00~13:30 総会  
13:40~15:10 講演  
「世界の音楽教育から我が国の音楽教育を考える  
~ヨーロッパ, アメリカ, アジアの学校教育を通して~」  
小川 昌文氏 (横浜国立大学 教育学部教授)  
15:30~16:30 研究発表  
(1) 初等音楽科教育法における実践的指導力を有する教師を育成する授業実践に  
ついての研究 - 歌唱共通教材のアンケート調査を基に -  
日本体育大学 氏家 史人  
(2) コダーイ・アプローチによるソルフェージュの実践  
—保育士養成/幼稚園・小学校教員養成の授業から—  
川村学園女子大学 尾見 敦子  
(3) 保育内容「表現」の授業内容を考える  
—再課程認定で求められる情報機器の活用と幼児の評価について—  
十文字学園女子大学 二宮 紀子
- 4 研究会参加費 会員 1000 円 一般参加 1500 円
- 5 情報交換会 17:00~19:00  
会費: 5000 円 会場: デイナイト 東京都港区三田 3-10-1-アーバンネット三田ビル 1F  
都営浅草線泉岳寺駅 A3 番・出口 徒歩 1 分 TEL03-3769-7666

\*総会開催のため、第 1 次案内に同封いたしました出欠確認の葉書(委任状付)を 6/12 (火)までに返送  
いただきたくお願いいたします。特に欠席の先生は委任状に署名・捺印の上、ご返送ください。

## 講演：世界の音楽教育から我が国の音楽教育を考える

### ～ヨーロッパ、アメリカ、アジアの学校の音楽教育を踏まえて～

横浜国立大学 小川 昌文

アメリカの博士課程で音楽教育を学び、ヨーロッパをはじめ世界各地の音楽教育の事情を調査し、中国、台湾、韓国の音楽教育関係者と意見交換し、また東南アジアの学校音楽教育の発展に関わっている中で、我が国の学校を中心とした音楽教育との共通点と相違点が明らかになってきた。またこの比較を通して、我が国の音楽教育のユニークさ、特殊性、優れた点とともに課題、問題点などが明らかになってきた。本日は、内部からでなく、外側からの視点から我が国の音楽教育（学校教育と教員養成を中心に）について考えてみたい。具体的には以下のテーマを含めて述べる予定である。

- (1) 音楽教育の目的は情操教育なのか。
- (2) 音楽の教師で最も重要な能力は何か。
- (3) 今、東南アジア（ベトナム、インドネシア）の音楽教育はどうなっているのか。
- (4) 我が国の（学校）音楽教育は世界からみてどのように位置付けられるのか。我が国の問題は諸外国でも共通か。
- (5) 今後、我が国の（学校）音楽教育はどうあるべきなのか。

## 研究発表

- (1) 初等音楽科教育法における実践的指導力を有する教師を育成する授業実践について  
の研究  
- 歌唱共通教材のアンケート調査を基に -

日本体育大学 氏家 史人

本研究は、小学校教員を志望する大学生の中で、文部科学省が定める「歌唱共通教材」全24曲についてどれだけ認知しているか、またその結果からどのような問題が考えられるかを検討するものである。

「音楽」は【歌う・演奏する・踊る・聴く】といったように様々な楽しみ方がある。しかし「音楽」教科となると、昨今、学生の授業への姿勢は歌を歌うことに対するコンプレックスや、ピアノ演奏への不安を抱えているという理由から、消極的である場面が多く散見される。また小学校は、【歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞】が教材の柱となっており、それらに対する教師としての内容理解も求められている。そこで、日本体育大学児童スポーツ教育学部における「初等音楽科教育法」と「初等音楽」の履修生を対象に、学習指導要領において指定されている「歌唱共通教材」に焦点を当て、アンケート調査を行った。

この発表を研究の第一段階とすることで、今後より多角的に音楽科教育に関する知見を広げたい。

## (2) コダーイ・アプローチによるソルフェージュの実践

—保育士養成／幼稚園・小学校教員養成の授業から—

川村学園女子大学 尾見 敦子

保育士養成、幼稚園・小学校教員養成の音楽授業の成功の鍵はソルフェージュ力の育成にある。次期小学校学習指導要領（「音楽の構造」「理解」）はソルフェージュ教育の重要性を示唆していると思う。

楽譜が読めるようになり、音感が育ってくると、能動性が高まり、音楽活動の楽しさと音楽表現の質的向上がもたらされる。学生と教師にとって音楽的で楽しい授業の原点はソルフェージュにある。

コダーイ・アプローチでは楽器に先立って「歌う」ことから始め、音を頭の中で思い浮かべられるようにする（内的聴感）。頭の中で鳴っているものを、声に出して歌い、歌ったものをピアノや楽器で弾く。多声を聴く一人カノンがピアノを両手で弾く準備となる。リズム唱や移動ド唱をすると、曲を分析することになる。自分で曲の形式の発見、和音の選択ができる達成感が味わえ、それが学生を能動的な練習に向かわせる。コダーイ・アプローチによるソルフェージュの実践と成果を報告したい。

## (3) 保育内容「表現」の授業内容を考える

—再課程認定で求められる情報機器の活用と幼児の評価について—

十文字学園女子大学 二宮 紀子

この度の再課程認定の教職課程コアカリキュラム対応表では、《保育内容の指導法》の後に括弧書きで（情報機器及び教材の活用を含む。）という文言が明記され、＜保育内容の指導方法と保育の構想＞の到達目標に「各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる」が挙げられている。又、＜各領域のねらい及び内容＞の到達目標では「幼稚園教育における評価の考え方を理解している」が掲げられている。小学校の教科等とのつながりの理解も求められており、一見すると保育内容「表現」に改正されてより目指してきた理解と内容から大きくそれるような印象を受ける。しかしそうではないらしい。そうではないのであれば、実体験を重視してきた幼児教育における情報機器の活用とは如何なるものなのか、そして一步間違えれば学校教育的な評価を念頭においてしまいがちな「評価」という言葉で表される「幼児教育で求められる評価」とはどのようなものなのか。様々な資料と知見から考えたい。